

第45号 (2019-9月発行)

根郷

寿だより



発行 佐倉市立根郷公民館

〒285-0815 佐倉市城 343-5

043-486-3147 FAX 043-486-3686

E-mail negou-public@city.sakura.lg.jp

編集 根郷寿大学・根郷寿だより編集委員会

開講式にあたり

会長 樹村 光雄

令和元年根郷寿大学の開講式が先般5月17日(金) 挙行されました。正に歴史の1ページを飾るに相応しい日でありました。

教育次長、愛光理事長の来賓のご出席を賜りご祝辞を頂くことが出来ました。私は会長挨拶で平成最後の閉講式で配布致しました根郷寿だより(44号)をテーマに取り上げ多方面に互る経験、体験、女性の投稿等の多さに以前とは比すべくもない充実した進歩した姿に接し、欣喜雀躍そのものでした。このトレンドを是非とも「令和」へ維持発展させるステップ台になって大いにこの空気を敷衍させなければと意を強く致しました。

令和の年を迎え「1人1人がそれぞれ素晴らしい素質のある方々です。それぞれ美しい花を咲かせる」時代ではないかとその意義を感じております。些細な事でも何か他人、社会の為に役に立てる、自分

が納得出来る事それが美しい花です。「和をもって貴しとなす。」皆さんと和をもって仲良くし建設的に対話し、魅力のある、又楽しい場所根郷寿大学でありたいと思います。

令和



5月18日(土) 臼井のコミュニティイカレツジさくらの「入学式」に行つてまいりました。

「入学式」、その後全員での記念撮影が行われましたが、引き続き「講演」として、(千葉敬愛短大長) 明石 要一氏による「AIと共存する人づくり、町づくり」がありました。

コミュニティイカレツジさくらでは、1年間勉強したテーマ毎に来年2月に生徒の前でプレゼンテーション(結果発表)が催されるとの事でした。他のカレツジの良い点を弾力的

且つ虚心坦懐に素直に受容する心構えも必要なのは・・・と考えます。

私も会長として7年目になろうとしておりますが、自分はメインではなく皆さんがメインであり「チャンスを与え、経験して頂き、自信をつけて頂きたく、そのコンセプト・スタンスであり、最後の決断力は私の責任と思っております。

来年は「根郷寿大学50周年記念」が控えております。可能な限り皆さんと共に積極的、能動的、行動力で対応し素晴らしいメモリーとして結実させて頂きますようお願いしております。

千利休の「和敬静寂」(和を重んじ己を慎み、他者を敬う) この精神で運営させていただきたいと思えます。 以上

卒業の日に感謝

元根郷寿大学生 渡辺 美知子
根郷寿大学終了式の今日、思いがけず「感謝状」頂きました。入学し

て十年以上とか条件はある様ですが、根郷寿大学に入ったきっかけは、友人から楽しいし、学ぶ事も沢山あるのでもと誘われました。彼女はいきいきと楽しそうに話をしてくれました。

でもその頃、私は交通安全協会婦人部のボランティア活動、人権擁護委員、結婚相談員、個人情報保護委員と結構多忙で、又、ストレスのたまる仕事でしたし、折角誘って下さったけれど、気持ちの上で余裕無く、残念でしたがおことわりしました。何年か過ちいよいよ根郷寿大学に入ろうと思った時には、誘ってくれた友人は宇宙にいつてしまいました。一寸心細かったのですが、思い切って申し込みました。

多くの方達ともお知り合いとなり、健康の事、歴史的なこと、実のある月日でした。会長さんの横文字入りのお話、張りのある声、心にしています。

今年度は散々な目に会いました。ペースメーカーの電池切れでとり替えたり、風邪から肺炎となり1ヶ月

近くも入院、元氣な積りが、やはり年令には勝て無かったと反省。でも最後に御褒美として頂いた感謝状、とっても嬉しく思っています。皆様

ロボット化・簡素化にひとこと

十班 齋藤 たかし

近頃、不思議な現象が進んでいる。交通機関はスピードを競い、目的地に早く着くよう求められ、自動車は電気自動車も開発。

文字は手書きのぬくもりが少なくなつた。果してそれで良いのでしょうか。

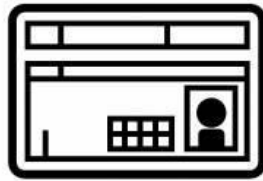
目的地に早く着きたければその分早起きしようよ。メダルは奪い取るものではない。努力を怠らなければ自ら付いてくる。

今どき「参加する事に意義がある」では生ぬるいでしょうか。勝った証はメダルです。気持ちは分かれます、頑張ればメダルは付いて来る。

今自動車はオートマが主流です。事故の大半はアクセルとブレーキの

踏み間違いです。何故そんなに簡素化を急ぐのですか。マニュアル車は安心です。おまけに左手左足を四六時中使います。ぼけ防止に繋がります。

私もマニュアル車を運転していません。そろそろ免許証返納の時期が近づきました。



漢字は分からなければ手持ちの携帯で見つかります。ところが例えば

「右」と「左」とでは筆順が違います。私自身、筆順通り書かないで文章を綴ってしまいます。他人事ではありません。いちいちうるさいね！と嫌われてしまうので、この辺で止めておきます。余計な事を言う「ちこちゃんに叱られます」から……。

(遊びの達人より)

川柳

七班 山城 安男

一息災か 令和元年 根郷の和を
二寿で 無理をするなよ 俺初老
三天高く 補充するビール 正論だ
四 四捨五入 俺の人生 腰砕け
五 絆にて 聞き耳立てて 仲間入り

地層に地磁気逆転の跡(チバニアン)

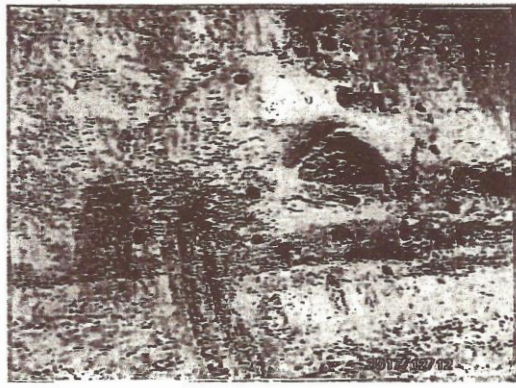
九班 直江 國雄

地磁気とは、地球を一つの大きな磁石と考えた時、その磁石の力のことです。現在は方位磁石の針・N極は北を指しますが、地球の長い歴史の中でN極、S極の向きは、たびたび逆転していたことが確認されています。

千葉県市原市には、かつて深さ1000m近い海底で堆積した地層が、後に隆起して房総半島となり、養老川の浸食作用によって崖になった場所があります。現地・田淵の雑木林から養老川へ急坂を少し下ると、露頭に左から右へ一本の筋が見えます。これが約77万年前、長野と岐阜の県

境にある御嶽山の噴火による火山灰（磁鉄鉱という鉱物を含む）の堆積層で、地磁気が逆転していた時代の目印になります。そこから下はもっと古い時代、上は新しい時代の堆積層です。

地磁気の逆転は過去360万年間だけでも11回確認されています。その最後にあたる77万年前に起きた逆転について観察できる露頭があり



露頭に見られる地層の地磁気調査試料採取孔

ます。逆磁極期から過渡期の磁極遷移帯を経て、現在と同じ正磁極期に戻る様子が連続して、はっきり観察できる海底堆積層です。右の写真の

ように、露頭の各所に資料採取孔がいくつも開いています。地磁気が逆転する様子を調べた跡です。このような観察ができるのはイタリア南部と市原市の地層だけです。イタリアも地層の命名に立候補しています。

国際標準模式地とは、地質学では岩石ができた年代や化石などによって46億年に及ぶ地球の歴史を115の時代に分けています。それぞれの時代の境目の様子が最も観察・研究しやすい一箇所を国際標準模式地としています。現在68箇所が決まっていますが、まだ日本にはありません。この市原の地層は新生代第四紀更新世前期と中期の境目の候補です。岡田誠茨城大学教授の研究グループは、この市原の調査研究を2017年6月に国際地質科学連合に申請し、一次審査を通過して模式地の候補に残ったことが11月に明らかになって報道されました。

さらに追加調査研究は日夜進められています。この田淵の周辺地層は幸いにも観察に最適な条件を備え

ています。すなわち堆積速度が極めて速く、1000年間に2m以上の堆積が観察できるため、地層に含まれる微化石や花粉などの分析をすることで、当時の生態や環境についても研究が進められているようです。あと2回の審査が通ることを願うばかりです。

認められれば「チバニアン」(ラテン語で千葉時代)と呼称され、日本の地名が地質時代の名称に初めてつけられる快挙となります。

興味のある方は、時間がありません。是非見学してください。

(現地への行き方)

JR内房線・五井駅(東京から直通で約1時間)で小湊鉄道に乗り換え月崎駅下車(五井から約1時間、千二百円)、徒歩1時間

(見学での注意事項)

1. 観察地の崖面は、養老川に直接面しているため降雨の後には、増水で水位が高くなる。また地面は濡れると大変滑りやすいので、半長靴や靴底がしっかりした履物が必要です。

2. 観察地は民有地のため案内人はいません。斜面への立ち入り禁止区域もあります。

3. 予備知識があれば、より楽しくなる。この記事はしっかりと読んでから出かけてください。

ひとりごと

三班 菊池 美千枝
布団から起きだして、台所に行く
と窓ガラスが明るい。今日は良い天気だわ、ポランテアに参加しようかしらね。どこの交差点で活動かな、何時ごろ家を出たらいいかしら。残念無念、志津の交差点だわ。車で三十分位時間がかかるのでアウト！来月の山王交差点に参加することにしようかな。

赤信号で止まっている自動車の窓ガラスをトントン。チャツとこちらを向いたけれども、後は面倒くさそうに手をサアと動かすだけで無視されてしまう。イケメンなのに心の中は余裕がないのね、愉快なことや面白いことは気持ちに余裕がないと

分からないのだから損するわよ。面倒くさいな、大きなお世話だって言われそうです。しかし、即座に窓を開けて「ご苦勞様です。お疲れ様です」と労いの言葉を掛けて下さる方もいます。そのような気持ちの良い対応をしてくれるドライバーさんには、ティッシュの数をプラスして渡してしまいます。ある方の話では、男だからティッシュを二つ用意してないと窓を開けてくれないのだからです。ドライバーさんの対応が色々で興味深いし、面白いです。「お早うございます、交通安全を訴えています！ ○×日から交通安全週間が始まりますので、安全運転をお願いします！」そのような声掛けをしながらチラシとティッシュを配る啓発活動だから受け取る時間も大した時間ではないので、どこかの交差点で活動していたら窓を開けて受け取ってくださいね。

今、一番思っているのはアクション10の啓発活動をもっと皆さんに知って貰いたいという事です。佐倉警察署の

警察官・道路維持課の方そして、色々なボランティアの方が精力的に活動しているのです。安全協会・推進隊・安管協・母の会等のボランティアの方々はそれなりのお年を重ねた方ばかりです。私も含めてですよ。活動場所に行ってみると見慣れた顔が揃います。「おはようございます、今日もよろしくお願いします」と挨拶すると、元気な声で挨拶を返していただけなので、今日も張り切って活動する気持ちになるのです。暑さにも寒さにも負けず寄る年波にも負けずに、死亡事故が一つでも少なくなるように佐倉市が少しでも良くなるようにと、全員ではなくとも願いながら活動しています。



国民の不信感

元根郷寿大学生 廣吉 正毅

このところ役所が起こした問題がたびたびマスコミに報道されている。このことを、ニュースで知って彼は複雑な気持ちになった。詳しくは分らないが、役所が民衆をないがしろにしたせいかな？

役人は、法律を根拠にして仕事をしなければならぬ。けれども、それを誠実に行わず飛ばしたらしい。

一般に「帳尻あわせ」とか、「手抜き」と言われている。この「禁じ手」を使つたようだ。彼は、このように法律に違反した行為はきわめてマズイと思つた。

それが後になって大きな問題となり、役人は国民から不信感を持たれてしまった。

一方、役所は民間企業ではないので倒産はない。だが、何かにつけて国民の協力が無くなることだつてある。

ところで日本は、あの戦争が終わりご承知のとおり新憲法を發布し、

旧体制を改め国民主権へと舵を切つた。つまり民主主義国家として歩くことになった。

憲法は人間の本来の価値観を認め、広く基本的人権を定めたものであつた。今まで完璧では無かつた国民の人権が、憲法によつて擁護された。その人権を守るのが役人である。

さて、国の役所はそれぞれ固有の業務を処理している。だが、なかには省庁間にまたがる職場がある。

この特別な部署も例外なく人事異動で職員が転動していく。それも仕事に手慣れた係員が異動することもある。

すると、彼の職場では公務に遅れが目立つようになってきた。これが職員の気持ちを不安定にさせた。

そうなると、感情や考えの違いから職員の間でわだかまりが生まれた。職場からは次第に活気が消え、その部署は業績が振るわなくなった。でも庶民は役人を頼りにしている。

先ず彼は、職員に改善に向けての話し合いをさせることにした。これ

が解決の糸口であることに思いついたからだ。そこで、一人ひとりもっている誤解・不満・不信をださせ問題点を職員達に解決させるようにする。それでみんなが、わだかまを捨てれば活気ある以前の職場が戻って来る。

次に、実務能力の向上のための研修会を彼は立ち上げることにした。ここで職員に公務に必要な専門知識などを習得させ、常に仕事に集中できるようにする。こうして職員はきっちり仕事をし、国民の信頼と期待に応えることができる。

役人に対する大衆の不信感、このようにして徐々に無くなっていくものと思われる。

日本を今より住みよい国にするには、いつも国民目線で役人が仕事をしたいことだと彼はしみじみ思った。

明治維新に咲いた佐倉三人娘

五班 千々と 巖

全国の誰も知る歴史人は佐倉の

街にも多くの偉人がおられます。幕末期下総の雄藩「堀田十一万石佐倉藩」で相次いで産声を上げ東京で花を咲かせた三人の娘さんも全国誰もが知る佐倉が誇る人ではないでしょうか。

◎始めの女史は「佐倉順天堂病院」から「博愛社病院」を開設した佐藤舜海の長女「佐藤志津」さん。嘉永四年（一八五二）佐倉本町で誕生。

志津さんは苦勞知らずに育ったお嬢様から若奥様と幸福な道を歩んできた志津であるが単なる良家の子女でなかった。明治三十五年「東京女子美大」を引継ぎ大正四年「佐藤高等学校」を設立この年、女子教育功労者として、津田梅子と共に「勲六等宝冠章」を授与され大正八年三月病没、享年六十八歳であった。

◎次の女史は佐倉藩士佐倉将門町生で明治政府農林関係第一貢献者、津田仙の次女「津田梅子」さん。佐倉藩武家屋敷で誕生、八歳からアメリカ留学を繰り返し、明治二十三年「女子英語塾」創設、三十七年「津田塾

大学」を設立しこの場が後の女子教育のメッカとなった。大正四年「勲六等宝冠章」授与。

津田梅子は一生独身で日本の女子教育に専念昭和四年八月鎌倉で六十六歳没

令和の「新五千円札」の顔に決定「佐倉が誇る名誉市民」の第一人者である。

◎最後は同じ佐倉藩武士、花井専之介長女「花井梅」さん。

梅さんは佐倉藩江戸屋敷江原台で誕生（臼井説もあり）貧困一家は東京へ出る。お梅十六歳柳橋の酌婦となり、明治二十年日本橋浜町に待合「酔月楼」を開業、持ち前の「美貌と気風」の良さが評判で店は大繁盛するが使用人「箱持ち」の男を刺殺し十六年投獄から恩赦で出獄、芝居一座に誘われ自ら人生「お梅一代」とした芝居で全国を巡演し最後、新橋芸者に戻るが大正五年肺結核で没す。哀れお梅さん五十四歳の年であった。毛髪が入る墓は佐倉重願寺にもあり。

昭和十年『川口松太郎』小説「明

治一代女」でお梅は主人公となり人氣歌手「神楽坂浮子」が「♪浮いた浮いたの浜町河岸しで浮かれ柳の：」と色っぽく唄い永遠の大ヒット曲となっっています。

明治維新を前後して生き、花が咲いた三人、奇しくも佐倉藩出身の女性なりその生き方に違いがあるが、人の世の表を歩いたお二人と、人生の裏街道を歩いた「花井梅」さん。この生き方を比較するとあまりにも淋しくなります。

さくらの「梅二輪 何時までも美しく咲き続けておくれ

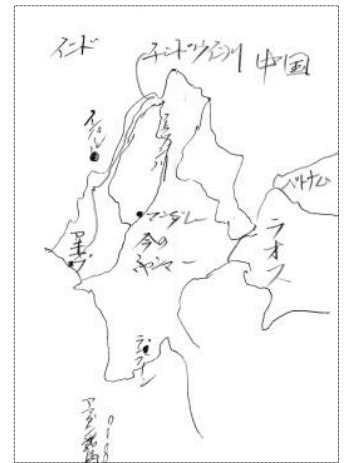
戦争の真実を知り後世に

伝える大切さ

五班 伊藤トク子

戦争の無かった平成に幕が下り、平和を願って「令和」の時代になり、その最中、国会議員が日本の北方領土問題につき戦争に縊り解決等と発言された事は余りにも軽々であると思ふ。

私の叔父（戸籍上の父）は先の大戦では現役の日本陸軍主計大尉でした。叔父は世界列強国を敵に廻し戦いの愚かさを演じた事は、真にやむを得ない国際的な理由があつたにせよ日本歴史上最大の汚点を遺す事になつたと下級将校の一人として真に申し訳ない事をしたと詫びていました。航空兵こそ軍の要の時代に歩兵中心の第十五軍司令官牟田口中将統率のインパール作戦は、蒋介石率いる中国軍と連合軍の援蒋ルート分断作戦に三方から日本軍九万人投入するも八割が命を落とした（戦死者三万二千人、マラリヤ等の死者四万人以上）叔父の所属する部隊も標高二千メートル級のアラカン山系に於いて歩けない者は這つて前進、食料、弾薬、医療品等は軍隊の生命線である補給路を断たれ、雨水を飲めば下痢、木、葉、猿、虫あらゆる物等を食すると耐え難い苦しみと便秘、灰を粉にし薬代わり、効果の程は千差万別の事。ビルマ最大のシタン渡河は飛行機からの狙い撃ちを避け



る為午前二時頃川幅約二百メートル強を茅葦藎等で作った筏を利用し重裝備を乗せ裸で夜間の強行渡河は集結時三万二千の内、生存者七千八百人との事、大岡昇平のレイテ戦記では八万人の兵の内生き残つた者は二千五百人と記されています。叔父はビルマの戦地に於いて木一本の陰、陸軍なのに軍用機の故障、逃避中の船舶の脱出、直の爆撃、銃弾下の中で生と死の間隙を数十回潜り抜けたとの事。過酷な戦場でしたがビルマの青年モンセイオン（日本名一郎）通訳兼案内人は敗戦を承知の上で最期迄仕えて呉れ忠誠心には只々感銘致し感謝をし自分の腕時計をお礼としたそうです。捕虜にはなりたくなかったのだが

イギリス軍に侵攻され武装解除をさせられ同時に赤痢に感染し法定伝染病で有り、イギリス軍の病院に強制的に隔離入院させられインド兵（ゴルガ兵）二名が徹夜の看病、敵国の区別なく同等の診療に努めていた。外地で八月二十六日終戦を知らされ翌年三月迄居残り残務整理をし、帰宅後約一年自費で帰還業務の支部長を務めた。生き残つて戦友に済まないという気持ちから靖国神社を大事にしていました。

戦後三十年ルバン島から帰還した小野田寛郎少尉には自分の事のように喜んでいて、兄の格郎君とは同期でも有り実兄の戦死もある中で、極東国際軍事裁判は勝者が敗者を裁いたのではないか。平和の時代に生きている私達は尊い命を投げ出し平和の礎となつてくれた先人に報いる為にも、平和の大切さを語り継ごうではありませんか。

七十有余年前の出来事は夢のごとく消え去り再び戻る事は有りませんが、風化させない様に語り継ぎまし

よう。叔父は命のある限り当時の事が脳裏に鮮明に写し出ると言っていました。

ツミ（雀鷹）の巣立ち

一班 青山 健一

今年も、ツミが巣立ちをしました。ツミと言うのは、鷹のなかまの中でも最も小さなタカです。漢字で雀鷹（すずめたか）と書きます。大きさは、雌の場合は、キジバト位と言われています。雄はさらに小さくヒョドリ程度と言われます。猛禽類ですので、肉食でエサはスズメ、ツバメなどで、幼鳥は、セミなども捕らえて食べます。



イラスト：サントリーの愛鳥
活動「日本の鳥百科」より

鷹はカラスの天敵のようで、ツミも例外ではなく巣のそば100メートル

ル位にカラスが侵入すると物凄い勢いでカラスを追い払います。小さなツミが大きなカラスを追撃するのは見ごたえがあります。

今年は、5羽ふ化をしたと思いますが、1羽は残念ながら亡くなりました。巣のそばに埋葬をしました。

日本では、準絶滅危惧種のもので希少な鳥です。基本的には渡り鳥のようですが、ここにいるツミは、留鳥(留まっている鳥)のようです。印旛沼のどこかにいるように思います。

4月下旬ころから巣作りをはじめ5月中旬には、抱卵がはじまりました。6月下旬には、真っ白なうぶ毛の雛が巣から顔を出しています。そして7月中旬には、巣を離れ公園内を飛翔していました。そして7月下旬には、幼鳥の大きさはすでに親鳥と見分けがつかせません。自分で狩(エサ取り)をはじめました。まだセミを捕食している程度ですが、あと数週間でスズメなどを捕らえると

思われます。

4月から7月までの約3か月間でしたが、雨の日も含めほぼ毎日、早朝(5時ころ) 観察を続けました。

8月初旬公園内には、ツミは見あたりません。幼鳥は巣立ちました。来年もまた会える事を期待しています。ありがとうございます！

旧総武鉄道物井駅佐倉駅間

八班 川辺 忠俊

歴史同好会で旧佐倉駅と物井駅間の軌道敷について話題になり、ちょうど現地に説明板があったので調べて見た。現地の周辺は土盛りした跡があり近くに物井川があった。ここに当時亀崎橋があったのでしよう。寺崎城跡から物井方面を覗き、左方向に現在の電化形式のJR軌道敷が見える。田圃の草むらの中を20分ほど先へ進むと、途中桜並木が見えた。木の下に煉瓦の塊があり、たぶん橋桁のような遺物かも知れない。佐倉の木は軌道敷の記念に植えたもので太さからすると約25年は過ぎてい

ると思います。その先に農道があり道を切断する形で橋台跡が見つかった。この橋台跡は現在のJR総武線の前身である事柄を説明板になにやら事細かく書いてある。



総武鉄道物井川橋梁亀崎橋台跡

総武本線鉄道工事が市川―佐倉間で始まり、明治27年7月20日私鉄として開業した。物井駅―佐倉駅間のルートは始め佐倉中心街を通る予定であったが、佐倉街の中心は標高30mあるため、物井方面から佐倉まで勾配を付けなくてはなりません。そのため莫大な費用がかさみ中止となった。

又佐倉市民の反対が強く工事を断念するに至った。其のためか佐倉街から離れた寺崎方面に軌道敷を敷いたようです。ただ物井の亀崎から寺崎間の田圃が低湿地帯なので、雨が降ると水はけがわるいので軌道敷も高くしたのではないか。

亀崎橋台に当時の軌道敷が高さ約5mで長さ100mの物が残っていた。この軌道敷は盛土により築堤し、端の部分は土留のため間知石を積み上げていたようです。橋梁は鉄で桁は銅板、橋台部分は煉瓦造りである。煉瓦の積み上げ方はオランダ式積上げと呼ばれているようです。橋桁を支える部分は花崗岩を使用し床石を配し補強している。橋台に使用された煉瓦は桜の花びらのモチーフが二種あるとか。中には現在の東京拘置所で製造されたものもあり、日本の煉瓦製造の初期の段階の製品であるとか。この軌道敷は単線で昭和43年寺崎トンネルが開通していろいろ電化軌道に変わり、複線化になり成田線が開通するようになった。この橋台

跡は四街道市指定文化財（有形建造物）になっているそうです。

寺崎地区最北端（舌状）の高台、寺崎城跡は標高35mあり、この高台から物井方面を見ると田圃の中の軌道敷跡が一直線に見える。当時の軌道敷に差支えないように設置したのでしょうか。

現在のJR佐倉駅近くに高崎川南公園があり、そこに蒸気機関車を保存、展示してあります。通称ハチロク（8620形式）と呼ばれるそうです。このハチロクは総武本線の佐倉機関区で活躍し昭和44年に廃車になったそうです。当時は黒煙を吐き、汽笛を鳴らしながら佐倉―物井間を走った事でしょう。そのような景色が眼に映る。

※ 会員募集 「ねいこう歩こう会」

・成り立ち 根郷公民館の主催事業のうち平成十九年開催の「根郷探訪」及び平成二十二年開催の「健康づくり講座」ウォーキングの会が合体し、その後会員の入れ替わりを経て現在

に至る。

団体で傷害保険を掛け、根郷地区に限らず佐倉市内の史跡を散策しながら郷土愛を高める。

※年に一度は市外へ出向くことあり。最高人員で世話人を含め三十一人とし来年度（令和二年度）の募集は先着順で七人迄。

申込希望者は住所、氏名、生年月日を記入根郷公民館窓口（又は世話人斎藤）へ提出、メモ用紙で可とします。

申込期日は令和二年一月七日（火）～二月二十八日（金）迄

入会希望者で事前に試し歩きしたい方は世話人斎藤へご連絡下さい。
斎藤 TEL・FAX 043-484-0097

携帯 090-8354-2906

編集後記（敬称略）

五月十七日の開講式で根郷公民館職員の異動紹介がありました。左記の通りです。（発令は四月一日付）

根郷公民館

館長 櫻井 理恵

主査 齊藤 二三子

主査 岡本 茂幸（新任）

主査 藤代 明（新任）

主査補 下原 勉

主査補 井原 健一（新任）

事務補佐員 戸田 さよ子

◇長沢 泉（転出）

中央公民館

根郷寿大学で受講する我々の活動を親身になって、ご指導・ご支援を頂いております。今年もよろしくお願い申し上げます。

◇根郷寿大学運営委員会

会長 樹村 光雄

副会長 國見 美子

副会長 渡部 敏夫

◇根郷寿だより編集委員（順不同）

齋藤 雄、吉野 強三郎、

原田 涉、山城 安男、

座間 功、犬丸 俊博、

渡辺 ヒサ子（新任）、

山田 礼子（新任）

本年度は昭和四十五年（1970）

の十月に開講して、間もなく五十年

目を迎えようとしております。来年度は根郷寿大学の開設年から数えても節目の年となります。編集委員会

としましても臨時記念号の発行を計画しておりますので、受講生の皆様からの投稿を期待しつつ、併せて、臨時記念号への歴代受講生の方々からの投稿をよろしく願います。

なお、定例の次号四十六号は来年三月発行を予定致しております。全員で作る「根郷寿だより」の原則に立ち返り、多くの方から投稿を頂きたく、皆様に編集委員及び編集協力員よりお願い申し上げます。政治

的主張、宗教勧誘、営業・宣伝等の内容でなければどの様な内容でも結構です。長文では1200文字以内でお願いしますが、俳句、短歌、川柳の投稿も大歓迎です。

また、電子メールによって投稿することが可能な方は、「根郷寿だより」表紙記載のメールアドレス宛にお送り頂いても構いません。宜しくお願い致します。

以上 犬丸 俊博（記）